

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	石井（柳原） 恵 【ジェンダー学際研究専攻 平成23年度生】	要 旨
論 文 題 目	〈化外〉の〈おなご〉のフェミニズム -岩手・麗ら舎読書会の思想と活動の軌跡を読む-	<p>本論文は、戦後岩手県において展開した女性運動とそれを担った女性たちが提示したフェミニズムの在り方に着目して、その運動の思想と活動の特徴を明らかにするとともに、日本におけるフェミニズムの運動と歴史のなかにそれらを定位して分析することを目的とする。具体的には、岩手県北上市を拠点にフェミニズムの視点から活動が続けてきた小原麗子（1935年ー）と石川純子（1942年ー2008年）の実践の軌跡、そして彼女らが1984年に設立した集いの場である「麗ら舎」で継続実施されてきた「麗ら舎読書会」の活動を対象に据えて分析を行う。また、本論文では、国家などの中央の主流派イデオロギーに基づく統治に屈服した「周辺の地」として東北を全体化する眼差しに抗すべく、中央の主流派に服することのない対抗力を秘めた〈化外〉として岩手の地を捉え、さらに、岩手に生を刻む女性たちを〈おなご〉という民俗語彙を用いて、岩手の場所性に起因して醸成される女性主体の独自の概念化を図る。</p> <p>第1章では1950年代～60年代に小原が参画した青年団活動と生活記録運動の軌跡と『ばんげ』誌・『ささえ』誌の刊行を通じて、小原にとってのフェミニズムの実践方法論の萌芽を考察する。第2章では、石川のライフヒストリー、執筆活動、その著作の内容分析を通じて、女性の身体経験の観点から石川が「孕みの思想」と主体としての「農婦」を提唱するに至る過程を考察する。第3章では、小原が〈おなご〉たちの出会いと学びの場として創設し、石川が中軸として支えてきた「麗ら舎読書会」の活動の特質をエンパワーメントの観点から検討し、独自なく化外〉のフェミニズム思想が胚胎していく過程を分析する。第4章では、「麗ら舎読書会」の主要な活動の一つである千三忌（和賀町出身の戦没農民兵士・高橋千三とその母・セキの法要）の分析を通じて、小原の戦争・平和・女性をめぐる意識を考察する。第5章では、〈化外〉としての岩手の歴史的・社会的文脈を再確認したうえで、生活記録運動等を通じて「書くこと」「読むこと」「語ること」に覚醒した農村女性が、彼女たちに押しつけられた「働妻健母」のジェンダー規範に抗すべく、言語資源を紡ぎながら「田も作り詩も作る」〈おなご〉というアイデンティティを醸成していく過程を分析する。終章では、スティグマとしての〈化外〉をプライドと力の源泉としての〈化外〉へと転換し、女性という包括的カテゴリーにも抗しながら〈化外〉の〈おなご〉の在り方を追求する小原、石川、「麗ら舎読書会」会員らの活動を、〈化外〉の〈おなご〉のフェミニズムとして総括し、同時に、地域性と場所性を注視したフェミニズム研究の重要性を主張する。</p>
審 査 委 員	(主査) 教授 棚橋 訓	
	准教授 申 琪榮	
	教授 足立 眞理子	
	教授 坂本 佳鶴恵	
	教授 小玉 亮子	